

# 外との新しい つながりをもった住まい

## C O N T E N T S

刊行にあたって	・日本建築学会	2
あいさつ	・富永 祥子	3
総 評	・山梨 知彦	4
全国入選作品・講評		7
最優秀賞		8
優 秀 賞		10
佳 作		18
タジマ奨励賞		32
支部入選作品・講評		49
支部入選		50
応募要項		94
入選者・応募数一覧		97
事業概要・沿革		98
1952～2019年／課題と入選者一覧		98

### 設計競技事業委員会

(敬称略五十音順)

#### 〈2019〉2019年6月～2020年5月

委員長 富永 祥子 (事業理事、工学院大学教授)\*  
幹事 木島千嘉 (木島千嘉建築設計事務所、O.F.D.A.主宰) 安森亮雄 (千葉大学教授)\*  
委員 今本啓一 (東京理科大学教授)\* 畝森泰行 (畝森泰行建築設計事務所代表取締役)\*  
大植 哲 (山下設計執行役員建築設計部門副部門長第2設計部統括部長) 小林 光 (東北大学准教授)  
土屋伸一 (明野設備研究所取締役執行役員)\* 山田 哲 (東京工業大学教授) 横尾昇剛 (宇都宮大学教授)\*  
注) 無印委員 任期 2018年6月～2020年5月末日 / \*印委員 任期 2019年6月～2021年5月末日

#### 〈2020〉2020年6月～2021年5月

委員長 富永 祥子 (事業理事、工学院大学教授)  
幹事 常山未央 (東京理科大学講師)\* 安森亮雄 (千葉大学教授)  
委員 五十田 博 (京都大学教授)\* 今本啓一 (東京理科大学教授) 岩下 剛 (東京都市大学教授)\*  
畝森泰行 (畝森泰行建築設計事務所代表取締役) 土屋伸一 (明野設備研究所取締役執行役員)  
松田貢治 (三菱地所設計常盤橋プロジェクト室長)\* 横尾昇剛 (宇都宮大学教授)  
注) 無印委員 任期 2019年6月～2021年5月末日 / \*印委員 任期 2020年6月～2022年5月末日

#### 課題「外との新しいつながりをもった住まい」

##### 全国審査会

委員長 山梨 知彦 (日建設計常務執行役員チーフデザインオフィサー)  
審査員 伊藤 暁 (伊藤暁建築設計事務所代表、東洋大学准教授) 大谷 英二 (高知工科大学名誉教授) 小澤 丈夫 (北海道大学教授)  
北川 啓介 (名古屋工業大学教授) 土屋伸一 (明野設備研究所取締役執行役員) 御手洗 龍 (御手洗龍建築設計事務所代表)

## 作品集の刊行にあたって

日本建築学会は、その目的に「建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかる」と示されていて、建築界に幅広く会員をもち、会員数3万6千名を擁する学会です。これは「建築」が“Architecture”と訳され、学術・技術・芸術の三つの分野の力をかりて、時間を総合的に組み立てるものであることから、総合性を重視しなければならないためです。

そこで本会は、この目的に照らして設計競技を実施しています。始まったのは1906(明治39)年の「日露戦役記念建築物意匠案懸賞募集」で、以後、数々の設計競技を開催してきました。とくに、1952(昭和27)年度からは、支部共通事業として毎年課題を決めて実施するようになりました。それが今日では若手会員の設計者としての登竜門として周知され、定着したわけです。

ところで、本会にはかねてより建築界最高の建築作品賞として、日本建築学会賞(作品)が設けられており、さらに1995(平成7)年より、各年度の優れた建築に対して作品選奨が設けられました。本事業で、優れた成績を収めた諸氏は、さらにこれらの賞・奨を目指して、研鑽を重ねられることを期待しております。

また、1995年より、本会では支部共通事業である設計競技の成果を広く一般社会に公開することにより、さらにその成果を社会に還元したいと考え、作品集を刊行することになりました。

この作品集が、本会員のみならず建築家を目指す若い設計者、および学生諸君のための指針となる資料として、広く利用されることを期待しています。

2020年度 支部共通事業 日本建築学会設計競技  
「外との新しいつながりをもった住まい」

事業理事

富永 祥子

2020年度の設計競技の経過報告は以下のとおりである。

第1回設計競技事業委員会（2019年8月開催）において、山梨知彦氏（日建設計常務執行役員チーフデザインオフィサー）に審査委員長を依頼することとした。2020年度の課題は、山梨審査委員長より「外との新しいつながりをもった住まい」の提案を受け、各支部から意見を集め、それらをもとに設計競技事業委員・全国審査員合同委員会（2019年12月開催）において課題を決定し、審査委員7名による構成で全国審査会を設置した。2020年2月より募集を開始し、同年6月22日に締め切った。応募総数は264作品を数えた。

全国一次審査会（2020年7月28日開催）は、各支部審査を勝ちのぼった支部入選64作品を対象として、審査員のための非公開とし、全国入選候補12作品とタジマ奨励賞10作品を選考した。全国二次審査会（2020年9月8日開催）は、全国入選候補12作品を対象として、支部入選者のみに公開し、最優秀賞、優秀賞、佳作を決定した。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、日本建築学会大会（関東）も中止となり、全国審査会はともに初の試みとしてオンラインにて開催した。大会会場にて行う予定だった全国二次審査会は、例年と遜色ない熱心なプレゼンテーションと質疑審議が行われた。審査会における各応募者のプレゼンテーションはきわめて高い水準であった。

# 外との新しいつながりをもった住まい

審査委員長

山梨 知彦

設計競技の課題「外との新しいつながりをもった住まい」は、現在も猛威をふるい続けている新型コロナウイルス感染症の流行の兆しが微塵も感じられない状況で想定されたものだった。

言うまでもなく、建築をつくるという行為は、その内部と外部とを同時に創り出すことであり、その両者の間にいかなる「つながり」をもたせるかは建築の大きなテーマの一つである。特に、気候が比較的マイルドな日本においては、縁側や格子、引き戸といった比較的ささやかな仕組みで、建物内外の「切る/つなぐ」を巧みにコントロールしてきた伝統がある。

ところが、いわゆる「マンション」や「アパート」では、このつながりが極めて乏しい。昨今の「戸建て住宅」に目を向けてみても、苦勞して猫の額ほどの庭を確保してはいるものの、その庭と建物内部とが効果的につながれたものはほとんど見かけない。特に玄関では、大半の住戸がドア一枚を閉じることで内外のつながりを遮断するような形式が当たり前になっている。さらに言えば、これが住戸内部でも入れ子状に繰り返され、ドア一枚を閉じることで個室とパブリック空間である廊下が遮断される形式が、今は主流となっているように見える。都市部での人口密度や犯罪防止などから多くの都市生活者に受け入れられてきた形式でもあり、全てを否定するつもりはないが、私自身は違和感をもっていた。

この違和感を気付きへと変換してくれたのは、近年頻繁にメディアで取り上げられていた「ひきこもり」「孤独死」「幼児虐待」であった。この社会現象の根底には、現代の住まいで失われつつある建物内外のつながりが関係しているのではなかろうか、ここに大きな建築的課題があるのではなかろうかと、考えるようになった。それが課題に託した企図であった。

ところが、この課題を投げかけた後、コロナウイルスが世界を襲った。建築の内外をつなぐことに、さらに複雑な気付きを与えてくれる状況になった。まずは感染を避けるため、在宅勤務や休校が始まり、これまで当たり前であった人との出会いやつながりから切り離された。その一方で、Web会議のようなバーチャルなつながりが、リアルな世界の中で急速に存在感を高めていく状況を多くの人々が体験した。これらの体験が、建物内外のつながりについて、多くの新たな気付きを与えてくれる機会となったことは疑いのないところだろう。

今回の応募案も、コロナ禍の実体験をとおして獲得した新たな気付きから提案されたものであろうか、総じて粒ぞろいであった。当初の課題設定にあたって懸念された、暗く出口が見えない案や内外を安直につないだだけの案といった類のものは皆無という、課題の出題者としてはうれしい結果にも結びついた。

このような状況もあり、審査においても現時点で最も適切な問題抽出とそれに即した建築的解決を提示した案を選び出そうと、審査員一同奮闘努力をしたつもりである。

本設計競技は、いわゆるアイデアコンペではあるのだが、突飛なアイデアや大掛かりな仕掛けをベースとしたものは、今回の審査では票を集めることはなかった。むしろ、身の回りにある小さくてありふれた事象に着目し、そこから他者とは少し異なったオリジナリティのある読み取りを行い、僅かな工夫で住まいを周辺へと開き、つなげていく解法をとった提案に票が集まる結果となった。

おそらくこれは、今回の審査員の総意が「外とのつながり」をつくるという課題に対して、強力な特効薬で対応するといった大鉈を振るうような対処ではなく、小さな気付きの積み重ねの中で丁寧に解決すべき問題として捉えられていることを示している気がする。これもまた、コロナ禍を実体験した中で獲得された気付きに基づくものであろう。

コンペの常であろうが、審査結果は応募案の絶対的な優劣を示すものではなく、審査に加わったメンバーの現時点での関心が如実に映し出さざるを得ない。この我々の関心の方向性が、広く社会や応募者から共感されるものであることを願っている。

## 応募要項

【課題】 外との新しい  
つながりをもった住まい

〈主催〉 日本建築学会

〈後援〉 日本建築家協会

日本建築士会連合会

日本建築士事務所協会連合会

日本建設業連合会

〈主旨〉

昨今、新聞を開くたびに、テレビやネットでニュースを見るたびに、「ひきこもり」「孤独死」「幼児虐待」といった記事を目にする。大きな社会的関心を集めているものの、一般的にはそこに建築的課題を見いだす議論はほとんどなされていない。

私自身は、これらの問題の原因の一つは、現代日本の住まいの在り方にありそうに思っている。具体的に言えば、住まいの社会や外部への開き方、外とのつながりの喪失が、これらの社会問題を住まいの中で引き起こしている要因の一つなのではあるまいか、と疑っている。

考えてみれば、ひとつながりの世界から特定の部分を分節し、そのうえで完全に切り離すのではなく、内部の様子をうかがい知れたり、内部へ入れたりといった、内外を微妙につなぐ妙味の中に建築は成立していると言える。そして日本の伝統建築は、縁側、引戸、土間、掃き出し窓、暖簾などの種々の建築的エレメントを発明、発展させ、外とつながった住まいをつくり出してきた。

ところが、おそらくはドアの普及とともに、日本の住まいは、戸建てにおいても集住においても、周辺社会やコミュニティとのつながりを急速に失い始めたのではなかろうか。ドア一枚を閉じれば簡単にひきこもることができるようになった。また、かつてもあったはずの独居者の自然死は、ドアが閉じられた瞬間に壁の向こう側に切り離されてしまった孤独死となり、さらには周囲の人々が介入できない外壁の向こう側

※2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、応募要領における斜体の箇所を変更し、開催いたしました。

で幼児虐待が見過ごされている。そのような状況を生み出しているのではなかろうか。

こうした視点から、現代の住まいの外壁に、時代に即した「外とのつながり」を持たせるべく考えることは、現代の日本における身近でありながら、大きな建築的課題と思える。今回の課題は、現代における「外との新しいつながりをもった住まい」を提案してほしい。

(審査委員長 山梨 知彦)

〈応募規程〉

A. 課題 外との新しい  
つながりをもった住まい

B. 条件

実在の場所(計画対象)を設定し、何を「外」と捉え、如何にして住まいの中とつないだのかを明記してください。

C. 提出物

下記のbを除く3点を提出してください。

a. 応募申込書

以下のURLより応募申込書をダウンロードのうえ、必要事項を入力したものをA4サイズ1枚に印刷してください。

<https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2020/compe.doc>

b. 計画案

→A2サイズ2枚(420×594mm)の出力紙の提出を不要とします。

以下の内容をA2サイズ2枚(420×594mm)に収めてください。模型写真等を自由に組み合わせ、わかりやすく表現してください。

①設計主旨(文字サイズは10ポイント以上とし、600字以内の文章にまとめる)

②計画条件・計画対象の現状(図や写真等を用いてよい)

③配置図、平面図、断面図、立面図、透視図(縮尺明記のこと)

※用紙サイズは厳守。変形不可、2枚つなぎ合わせることは不可です。裏面には、No.1、No.2と番号を付けてください。仕上げは自由としますが、パネル、ボード類は使用しないでください。写

真等を貼り付ける場合は剥落しないように注意してください。模型、ビデオ等は受け付けません。

c. 作品名・設計主旨

「b.計画案」の作品名と設計主旨(図表、写真等は除く)を記載したものをA4サイズ1枚に印刷してください。

d. データを収めたCDまたはDVD

以下の①～④をCDまたはDVD1枚に収めてください。CDまたはDVDには、作品名と代表者の氏名・所属を明記してください。

①「a.応募申込書」のWordファイル

②「b.計画案」をA3サイズ2枚に縮小したPDFファイル(解像度は350dpiを保持し、容量は合計100MB以内とする。ファイルは1枚目が1ページ目、2枚目が2ページ目となるように作成する。A2サイズ1枚にはまとめないこと。)

③作品名および設計主旨の要約(200字以内)のテキストデータ

④顔写真(横4cm×縦3cm以内、顔が写っているものに限る)

※③、④は、入選後に刊行される『2020年度日本建築学会設計競技優秀作品集』(技報堂出版)および『建築雑誌』11月号の原稿として使用します。

D. 注意事項

①計画案および設計主旨の概要用紙には、応募者の氏名・所属などがわかるようなものを記入してはいけません。

②応募作品は、応募者自身のオリジナル作品であること。

③応募作品は、過去、現在申込み中のものも含めて、他の設計競技等に応募している作品(二重応募)、またはインターネット、出版物、その他のメディアで発表されたものは応募できません。

④応募作品は、全国二次審査が終了するまで、あらゆるメディアでの発表を禁じます。

⑤提出物は返却いたしません。

⑥質疑は受け付けません。

⑦応募要領に違反した場合は受賞を取り消すことがあります。

## E. 応募資格

本会個人会員（準会員を含む）、または会員のみで構成するグループとします。なお、同一代表名で複数の応募をすることはできません。

※未入会者、2019年度会費未納者ならびにその該当者が含まれるグループの応募は受け付けません。応募時までに入会および完納すること。（手続き完了まで1週間程度を要しますので、早めにご対応ください。）

## F. 提出方法

- ①「C. 提出物」a、c、dを一括して郵送してください。  
→bのみ不要としました。
- ②応募作品は1件ごとに提出してください。
- ③締切期日：2020年6月22日（月）17:00必着
- ④提出先：計画対象の所在地を所轄する本会各支部の事務局とします。例えば、関東支部所属の応募者が東北支部所轄地域内に場所を設定した場合は、東北支部へ提出してください。海外に場所を設定した場合は、応募者が所属する支部へ提出してください。  
本会各支部事務局の所在地は、「J.問合せ」①をご参照ください。

## G. 審査方法

### ①支部審査

各支部に集まった応募作品を支部ごとに審査し、応募数が15件以下は応募数の1/3程度、16~20件は5件を支部入選とします。また、応募数が20件を超える分は、5件の支部入選作品に支部審査委員の判断により、応募数5件ごと（端数は切り上げ）に対し1件を加えた件数を上限として支部入選とします。

### ②全国審査

支部入選作品をさらに本部に集め全国審査を行い、「H.賞および発表」の全国入選作品を選出します。

#### 1) 全国一次審査会（非公開）

全国入選候補作品とタジマ奨励賞の決定。

- 2) 全国二次審査会（公開）→会場に人を集めない方法での開催を予定しています。（詳細は未定）

全国入選候補者によるプレゼンテーションを実施し、その後に最終審査を行い、各賞と佳作を決定します。代理によるプレゼンテーションは認めません。模型を持参されても結構ですが、審査会場への搬入は発表者の負担と責任で当日中に行ってください。なお、タジマ奨励賞のプレゼンテーションはありません。

日時：2020年9月8日（火）

10:00~15:00

場所：千葉大学西千葉キャンパス

（大会会場：千葉市稲毛区弥生町1-33）

※大会参加費、旅費等の費用負担は一切いたしません。

### ●プログラム（予定）

10:00~開場

10:15~12:00

全国入選候補者によるプレゼンテーション  
（発表時間8分間（発表4分、質疑4分））  
PGプロジェクターは主催者側で用意します。パソコン等は各自でご用意ください。）

13:00~15:00 公開審査

16:15~17:00 表彰式

\*プログラムは、大会スケジュールにより時間が多少前後する場合があります。

### ③審査員（敬称略順不同）

#### 〈全国審査員〉

##### 委員長

山梨 知彦（日建設計常務執行役員チーフデザインオフィサー）

##### 委員

伊藤 暁（伊藤暁建築設計事務所代表/東洋大学准教授）

大谷 英二（高知工科大学名誉教授）

小澤 丈夫（北海道大学教授）

北川 啓介（名古屋工業大学教授）

土屋 伸一（明野設備研究所取締役執行役員）

御手洗 龍（御手洗龍建築設計事務所代表）

#### 〈支部審査員〉

##### ●北海道支部

赤坂真一郎（アカサカシンイチロウアトリエ代表取締役）

小西 彦仁（ヒココニシアーキテクチャ代表取締役）

久野 浩志（久野浩志建築設計事務所代表）

山田 良（札幌市立大学教授）

山之内裕一（山之内建築研究所代表）

##### ●東北支部

内山 隆弘（東北大学施設部キャンパスデザイン室専門職員）

齋藤 和哉（齋藤和哉建築設計事務所代表取締役）

飛ヶ谷潤一郎（東北大学准教授）

馬渡 龍（八戸工業高等専門学校准教授）

村上早紀子（福島大学准教授）

##### ●関東支部

東 正典（日本設計第1建築設計群副群長チーフ・アーキテクト）

伊藤 滋（東日本旅客鉄道東京支社施設部建築課建築課長）

今村 水紀（miCo.代表）

高橋 堅（高橋堅建築設計事務所主宰）

中村 航（MosaicDesign代表取締役）

##### ●東海支部

木下 誠一（三重短期大学教授）

塩田 有紀（塩田有紀建築設計事務所代表）

平野 章博（日建設計設計部門アソシエイト）

安井 秀夫（愛知工業大学教授）

米澤 隆（大同大学専任講師）

##### ●北陸支部

佐倉 弘祐（信州大学助教）

高嶋 猛（高嶋建築研究所代表）

西村 伸也（新潟大学教授）

萩野紀一郎（富山大学准教授）

宮下 智裕（金沢工業大学准教授）

横山 天心（富山大学准教授）

##### ●近畿支部

白井 明夫（鴻池組設計本部建築設計第1部長）

奥田 英雄（大林組大阪本店建築設計部部長）

喜多 主税（日建設計設計部門ダイレクター）

末包 伸吾（神戸大学教授）

柳沢 究（京都大学准教授）

##### ●中国支部

岡松 道雄（山口大学教授）

小川 晋一（近畿大学教授）

中藪 哲也（広島大学准教授）

原 浩二（原浩二建築設計事務所主宰）

向山 徹（岡山県立大学教授）

村上 徹（村上徹建築設計事務所主宰）

##### ●四国支部

大西 泰弘（田園都市設計代表取締役）

徳弘 忠純（徳弘・松澤建築事務所主宰）

中川 俊博（中川建築デザイン室代表取締役）

二宮 一平（二宮一平建築設計事務所所長）

## ●九州支部

黒瀬 武史 (九州大学准教授)  
柴田 建 (大分大学准教授)  
前田 哲 (日本設計チーフ・アーキテクト)  
宮原真美子 (佐賀大学准教授)  
矢作 昌生 (九州産業大学教授)

## H. 賞および発表

### ①賞

- 1) 支部入選：支部長より賞状および賞牌を贈ります(ただし、全国入選者・タジマ奨励賞は除く)。
- 2) 全国入選：次のとおりとします(合計12件以内)。

### ●最優秀賞：2件以内

賞状・賞牌・賞金(計100万円)

### ●優秀賞：数件

賞状・賞牌・賞金(各10万円)

### ●佳作：数件

賞状・賞牌・賞金(各5万円)

- 3) タジマ奨励賞：タジマ建築教育振興基金により、支部入選作品の中から、準会員の個人またはグループを対象に授与します(10件以内)。

賞状・賞牌・賞金(各10万円)

### ②発表

#### 1) 発表

- ・支部審査の結果：各支部より応募者に通知(7月17日以降予定)
- ・全国審査の結果：本部より全国一次審査結果を支部入選者に通知(8月上旬)
- ・全国入選作品・審査講評：『建築雑誌』2020年11月号ならびに本会Webサイトに掲載
- ・全国入選作品展示：**大会会場にて展示**

#### 2) 賞の贈呈

- ・支部入選者賞の贈呈：各支部による。
- ・全国入選者表彰式：**9月8日(火)千葉大学(大会会場)→未定**

## I. 著作権

入選作品の著作権は、入選者に帰属します。ただし、本会および本会が委託したものが、この事業の主旨に則して入選作品を『建築雑誌』または本会Webサイトへの掲載、紙媒体出版物(オンデマンド出版を含

む)および電子出版物(インターネット等)を利用し公衆に送信することを含む)、展示などでの公表等に用いる場合、入選者は無償でその使用を認めることとします。

## J. 問合せ

①各支部事務局 在地一覧 [計画対象地域]

### 日本建築学会北海道支部

(北海道)  
〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1  
北海道建設会館6階  
TEL.011-219-0702  
E-mail aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

### 日本建築学会東北支部

(青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島)  
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-15  
日本生命仙台勾当台南ビル4階  
TEL.022-265-3404  
E-mail aij-tohoku@mth.biglobe.ne.jp

### 日本建築学会関東支部

(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、山梨)  
〒108-8414 東京都港区芝5-26-20  
建築会館2階  
TEL.03-3456-2050  
E-mail kanto@aij.or.jp

### 日本建築学会東海支部

(静岡、岐阜、愛知、三重)  
〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19  
名古屋商工会議所ビル9階  
TEL.052-201-3088  
E-mail tokai-sibu@aij.or.jp

### 日本建築学会北陸支部

(新潟、富山、石川、福井、長野)  
〒920-0863 金沢市玉川町15-1  
パークサイドビル3階  
TEL.076-220-5566  
E-mail aij-h@p2222.nsk.ne.jp

### 日本建築学会近畿支部

(滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)  
〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4  
大阪科学技術センター内  
TEL.06-6443-0538  
E-mail aij-kinki@kfd.biglobe.ne.jp

### 日本建築学会中国支部

(鳥取、島根、岡山、広島、山口)  
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47  
広島県情報プラザ5階 広島県建築士会内  
TEL.082-243-6605  
E-mail chugoku@aij.or.jp

### 日本建築学会四国支部

(徳島、香川、愛媛、高知)  
〒782-0003 香美市土佐山田町宮ノ口185

高知工科大学地域連携棟201  
TEL.0887-53-4858  
E-mail aijsc@kochi-tech.ac.jp

### 日本建築学会九州支部

(福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、大分、鹿児島、沖縄)  
〒810-0001 福岡市中央区天神4-7-11  
クリアビル5階  
TEL.092-406-2416  
E-mail kyushu@aij.or.jp

### ②本部事務局

### 日本建築学会設計競技担当

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20  
TEL.03-3456-2051  
E-mail sekkeikyougai@aij.or.jp

### 【優秀作品集について】

全国入選・支部入選作品は『日本建築学会設計競技優秀作品集』(技報堂出版)に収録し刊行されます。過去の作品集も、設計の参考としてご活用ください。

### <過去5年の課題>

- ・2019年度  
「ダンチを再考する」
- ・2018年度  
「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」
- ・2017年度  
「地域の素材から立ち現れる建築」
- ・2016年度  
「残余空間に発見する建築」
- ・2015年度  
「もう一つのまち・もう一つの建築」

### <詳細・販売>

技報堂出版 <http://jihodobooks.jp/>



## 外との新しいつながりをもった住まい

2020年度日本建築学会設計競技優秀作品集

定価はカバーに表示してあります。

2020年12月20日 1版1刷発行

ISBN 978-4-7655-2619-7 C3052

編 者 一般社団法人日本建築学会

発 行 者 長 滋 彦

発 行 所 技報堂出版株式会社

日本書籍出版協会会員  
自然科学協会会員  
土木・建築書協会会員

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-2-5

電 話 営 業 (03)(5217)0885

編 集 (03)(5217)0881

F A X (03)(5217)0886

振替口座 00140-4-10

Printed in Japan

<http://gihodobooks.jp/>

©Architectural Institute of Japan, 2020

装幀 ジンキッズ

印刷・製本 朋栄ロジスティック

落丁・乱丁はお取り替えいたします。

**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構(電話：03-3513-6969, FAX：03-3513-6979, E-mail：info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。